

人材育成WG 7年目（2023年度）の活動構想（案）

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で、自らの知見とスキルを深める

「WXBC気象データのビジネス活用セミナー」

- ・年間テーマを選定
- ・気象データ利活用の有意性を訴求

原点回帰し、再開！

「気象データミニセミナー（仮）」

- ・気象データの種類
- ・最新情報
- ・利用ガイド
- ・活用事例 等

「気象データアナリスト育成講座」

（主催：外部研修機関）

- ・カリキュラム更新
- ・制度定着への協力&支援

発想力

人材育成WG内グループ別勉強会

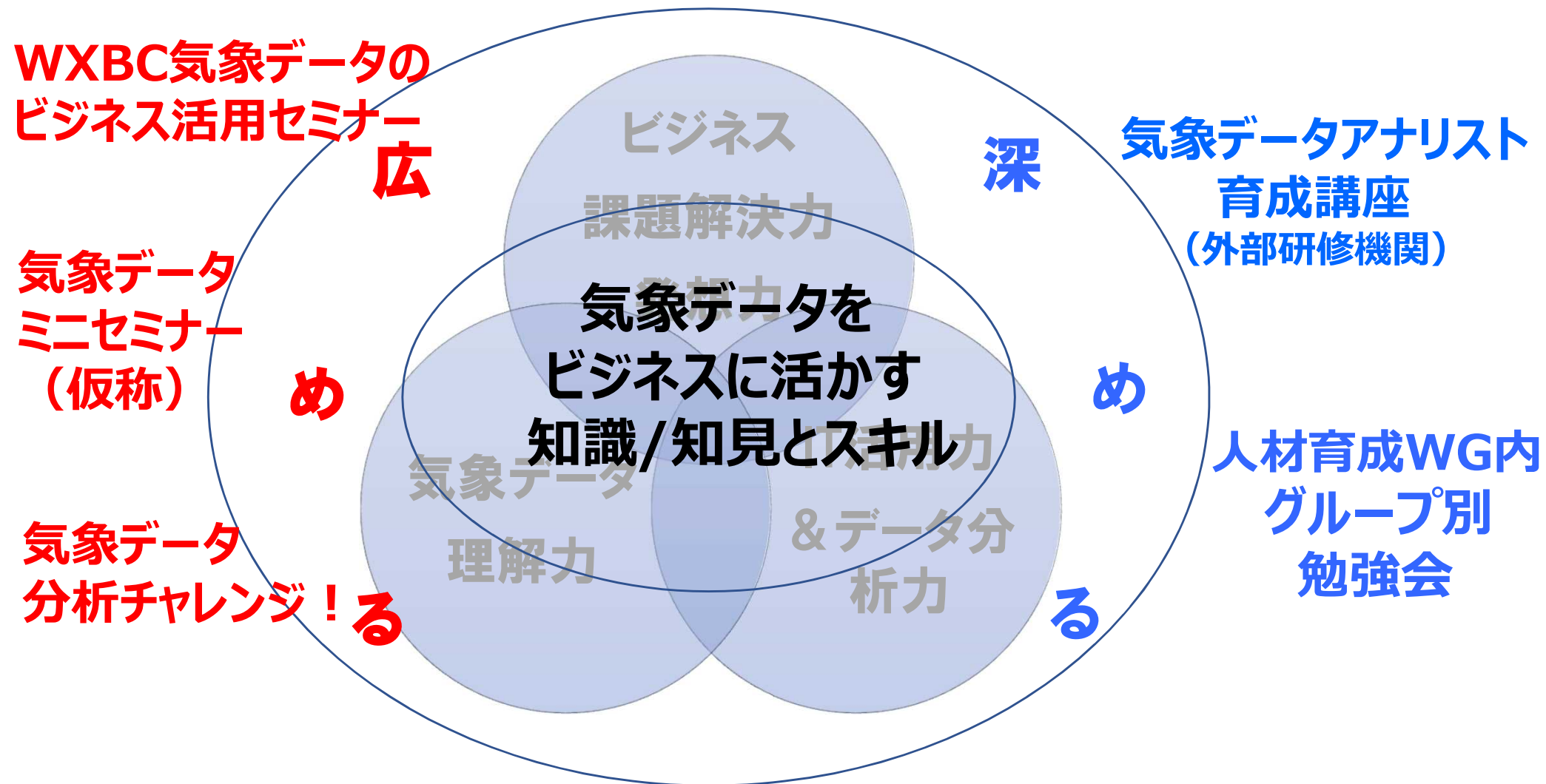
- ・ニーズ側&シーズ側の連携・協働の場づくり（モデルケースづくり）
& 連携・協働による人材育成の場
- ・調査・研究・考察・実証等の場
- ・自己研鑽&切磋琢磨で知見とスキルの向上を目指す場

「気象データ分析チャレンジ！」

IT活用&データ分析で気象データのビジネス利用を推進

- ・アメダスデータ
- ・メッシュデータ
- ・アンサンブル予報データ

活動と位置付け（案）



人材育成WG7年目（2023年度）の活動構想（案）①

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で、自らの知見やスキルを深める

【7年目の基本方針】

◆WG設立当初に設定した「気象データのビジネス活用に必須の3つのスキル」醸成を更に進めるため、「広める活動※1」と2020年度に取り組みを開始した「深める活動※2」を継続し一層の充実を図ることで、裾野拡大と先導者の育成を目指す。

※1：広める活動とは：セミナーや研修の場を通して蓄積・体系化された知識やスキルを伝播し人材の裾野拡大を図る活動

※2：深める活動とは：自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）を通して、自らの知見やスキルを深める活動
蓄積・取得した自らの知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す活動

◆産業分野における気象データのビジネス活用を推進するには、ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場作りが必須である。
本WGでは、今年度もユーザー側とシーズ側の連携・協働の場作りを更に進めるとともに場作りによる人材の育成を目指していく。

【課題】

1. 特に新規WG参加者が、WG全体会議や各勉強会活動に参加し易い環境作り/馴染める雰囲気作り
2. 現役世代を含み幅広い層からの参加を得て、深める活動をさらに推進
3. 特に、本業多忙あるいは参加時に上司の承認が必要となる若いメンバーが参加し易くなる方策の検討・試行
4. グループ別勉強会間の交流や連携の推進
5. 気象ビジネス市場の醸成促進策の検討・試行

人材育成WG7年目（2023年度）の活動構想（案）②

施策：【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する
【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で、自らの知見とスキルを深める

【活動内容】

1. 広める活動

- ・気象データに関する知識と活用スキルを習得できる場として、セミナーや研修を継続・強化する
- ・セミナーや研修を可能な限りオープン開催とし、気象データと利活用に関する知識とスキルを有する人材の裾野拡大に繋げる

具体策：

- ①ビジネスWGと共同し、「WXBC気象データのビジネス活用セミナー」を企画・実施（オンライン開催）
- ②気象データ理解力向上への取り組み再強化として、「気象データ ミニセミナー（仮）」を企画・実施（オンライン開催）
- ③日本気象予報士会と共催し、「気象予報士向け気象データセミナー(仮）」を企画・実施（オンライン開催）
- ④アメダスデータ、メッシュデータ、アンサンブル予報をメインに「気象データ分析チャレンジ！」を企画・実施（オンライン開催）
- ⑤地方セミナーや研修、モデルケース横展開等への協力・支援

人材育成WG7年目（2023年度）の活動構想（案）③

2. 深める活動（自主的な勉強会活動（調査、研究、考察、実証等）で、自らの知見とスキルを深める

・2020年度に開始した「グループ別勉強会」を継続し、下記の進展に注力する

- ①情報・経験の共有、議論、調査・研究、考察、実証等の活動を通して、仲間と共に学び、自らの進化と深化を図る
- ②深める活動で蓄積・取得した自らの知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す
- ③ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりを推進するとともに連携・協働を通して人材の育成を図る

具体策：WG内グループ別勉強会活動

①農業分野勉強会：多様な気象データの活用、高度利用で日本農業を元気に！

・CoP（Community of Practice）づくり及びCoP間の連携促進を継続、DX志向で「デジアナ栽培暦」と「栽培知・経営知」を構築

②再生可能エネルギー勉強会：再エネと気象の関わりを正しく理解するための知識を身に付け、普及に貢献！

・学会と連携したセミナー、設備見学会を企画し、再エネの最新技術や課題の把握等に関し知識の共有と深化を図る

・教育・生涯学習用コンテンツの作成を継続

③気象データの活用拡大と創出価値を考える勉強会（旧「気象情報による創出サービスの価値考察勉強会」）

・フレームワーク分析、モデリング検討、事例研究等のアプローチを通して、「気象データ活用の拡大・深堀」、「気象現象の個人への影響」、「創出サービスの価値」の3つの視点から議論を深め、広く通用する知見の獲得と共有を目指す

④扱いやすいオープンデータの形を探そう勉強会（旧「新型コロナx気象データ勉強会」）

・「お天気アプリ」（2027年国際園芸博覧会向け）の作成を通して、オープンデータの取得方法や実際に利用する上での留意事項をユーザー目線で考察することで知見の向上を目指す

⑤気象データxIT勉強会：気象データの活用に必要なIT活用力を身に付けよう！

・「気象データ分析チャレンジ！」の企画・教材開発・講師、自己研鑽と切磋琢磨の「IT勉強会内勉強会」の企画・運営、「気象データアナリスト育成講座」への協力・支援に継続して取り組む

人材育成WG 7年目（2023年度）の活動構想（案）④

【スケジュール案】

- 年次開催**
- ・第3回人材育成WGオープンセミナー（2023年4月21日（金）、オンライン開催）
 - ・第2回WXBC版ジュニアセッション（日本気象学会の協力を得て8月に開催予定）
- 月次開催**
- ・人材育成WG 全体会議（毎月第3金曜日午後）
 - ・グループ別勉強会（毎月第3金曜日の全体会議の終了後あるいは別日に開催）
（日々の情報・意見交換にはSNS等を利用）
 - ・「気象データ x IT」勉強会内勉強会（テーマ毎に日程調整。オンライン開催）
（日々の情報・意見交換にはSlackを利用）
- 随時開催**
- ・グループ別勉強会交流プログラム（交流会、情報/意見交換会等）
 - ・「WXBC気象データのビジネス活用セミナー」（ビジネスWG+事務局との合同企画&運営）
 - ・「気象データ分析チャレンジ！」（アメダスデータ、メッシュデータ、アンサンブル予報データ）
 - ・「気象データ ミニセミナー（仮）」（オープンセミナーとして事務局と共同企画・運営）
 - ・日本気象予報士会会員向け「気象庁公開データ解説セミナー（仮）」（気象予報士会との共催予定）
 - ・「IT勉強会内勉強会_活動報告会」
 - ・「気象データアナリスト育成講座」ガイドライン検討委員会
 - ・「WXBC版ジュニアセッション発表校」顧問の先生方との意見交換会

【設立10年に向けて】

1. 特に下記に注力することで、気象ビジネス推進の先導者を一人でも多く輩出することを目指していく
 - ・グループ別勉強会の活動テーマの拡充（例えば、農業以外の産業分野等）と新規メンバーの参加促進で知見とスキルを深化
 - ・外部研修機関による「気象データアナリスト育成講座」内容の充実と制度定着に向けた協力・支援
2. 新しいテーマ、新しいアプローチや活動方法に知恵をしばり、工夫しながら、気象ビジネスの次世代を担う若手の育成に努めていきたい